

産業建設常任委員会会議録

〔平成21年 5月13日開催〕

南あわじ市議会

産業建設常任委員会会議録

日 時 平成21年 5月13日
午後 1時30分 開会
午後 3時34分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（8名）

委 員	長	阿 部 計 一
副 委 員	長	印 部 久 信
委 員		砂 田 泉 洋
委 員		野 口 健 一 郎
委 員		川 上 命
委 員		楠 和 廣
委 員		北 村 利 夫
委 員		沖 弘 行
議 長		森 田 宏 昭

欠席委員 なし

事務局出席職員職氏名

局	長	淵 本 幸 男
次	長	前 田 和 義
課	長	阿 閉 裕 美
書	記	船 本 有 美

説明のために出席した者の職氏名

副 市 長	川 野 四 朗
-------	---------

産業振興部長	神田一彦
農業振興部長	木場徹
都市整備部長	野田博
上下水道部長	津谷忠志
産業振興部次長	水田泰善
農業振興部次長	奥野満也
都市整備部次長	山田充
上下水道部次長	道上光明
産業振興部商工観光課長	興津良祐
産業振興部企業誘致課長	北川真由美
産業振興部水産振興課長	早川益弘
農業振興部農林振興課長	太田孝次
農業振興部農地整備課長	大瀬久
農業振興部地籍調査課長	原口幸夫
農業振興部農業共済課長	北川満夫
都市整備部管理課長	和田幸三
都市整備部建設課長	神田拓治
都市整備部都市計画課長	森本秀利
上下水道部企業経営課長	松下修
上下水道部水道課長	岩倉正典
上下水道部下水道課長	山崎昌広
上下水道部下水道加入促進課長	喜田展弘
次長兼農業委員会事務局長	竹内秀次

. 会議に付した事件

1 . 所管事務調査について

..... 4

産業振興の推進について

農業振興の推進について

都市整備事業の推進について

上下水道事業の推進について

農業委員会に関すること

2 . その他 3 8

. 会議録

産業建設常任委員会

平成21年 5月13日(水)

(開会 午後 1時30分)

(閉会 午後 3時34分)

阿部計一委員長 皆さん、こんにちは。

今日は時間的に中途半端な時間の開会ということでございまして、大変申し訳なく思っておりますが、ご理解をいただきたいと思います。

早速ではございますが、定刻でございますので、ただいまから産業建設常任委員会を始めさせていただきます。

市長が公務で今日は欠席ということでございます。

副市長何かございましたら。

副市長(川野四朗) ご苦労さまでございます。

今委員長さんのほうからお話があったように、市長は近畿の市長会の総会ということで出席をさせていただいておりますので、欠席させていただいております。

過日の兵庫県の市長会で私どもの中田市長が県の市長会の副会長をおおせつかったようでございます。そういうこともございまして、出席をしております。

また近畿の港湾協会の副会長も今回、今年度お引き受けしたようでございますので、いろいろとそういうものも含めて、まず仕事につなげればなあということも市長もかねがねおっしゃっておりましたので、期待をしておるところです。

皆さまもご承知のようにゴールデンウィークももう終わったわけですが、高速道路の1000円効果、いろいろその効果についてはあちこちで新聞報道もなされているわけでございます。南あわじ市のほうでも一部いいところもあるし、そうでなかったところも見えておるわけでございます。宿泊についてもあまり期待したほど増加はなかったということを知りわけでございますが、ゴールデンウィークが終わって今年は特にデスティネーションキャンペーンということで観光客の増大ということ望んでおったんですが、それが果たして、効果のほどがあったのかどうか、私たちが期待するほどの人出が、寄せていただいたのか、ただ高速道路では70kmの渋滞があったということだけで、淡路島がおかれておったと、いうことでもないかなと考えるところでして。

これも皆さん方に以前から説明をいたしておりました、緊急雇用対策ということで、南あわじ市の産業振興協会のほうで4名臨時雇用させていただいております。

5月1日からその採用をはじめたわけなんです、今日の所管がほとんどでございます、バイオマスの利活用で1人、観光交流人口の増大ということで1人、瓦産業の販路拡大ということで1人、農商工連携事業に1人ということで4名の方が5月1日から勤めていただいております。

ただ雇っただけで、効果が現れてくるわけではございませんので、過日の産業振興部のほうといろいろ話をしまして、先ほどいいましたようにゴールデンウィークの状況はどうであったのか、その臨時職員につぶさに調査をさせるということを指示しております。それでその指示したその結果に基づいて今後の戦略をたてていきたいと考えております。

また瓦の販路拡大についても過日、瓦組合の理事長さん、専務、事務局長さんともども私どもと一緒にあってどのような仕事を始めていくのかという打ち合わせをしたところでございます。そういうことでなんとかこういう臨時雇用の問題等について、せっかく雇用したわけですので効果につなげられるように今後も取り組んでいきたいというふうに考えておるところでございます。

それから新型インフルエンザのことでございますが、ああいうふうに報道もされております。ただ私どもも4月の部長会でその体制を整えたわけでございますが、その後、2回目の会合を開いてどのように取り組んでいくのかという話もさせていただきましたが、その後、我々のほうでその体制を動かすような状況は出ておりませんで、今、皆さん方がテレビ等でお知りになるような状況で、特に南あわじ市としては特段の変化はないということでございまして、あらかじめお伝えをしておきたいと思っております。

今日は所管事務調査ということでございますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

阿部計一委員長 どうもありがとうございました。

それではお諮りをいたします。いつものように所管事務調査ということで、5番まであるわけですが、一括議題としてさせていただいてよろしいでしょうか。

はい、異議なしとして認めます。

よって一括議題としてたぐいまから審議に入りたいと思っております。

何かありましたら。

それと冷房のほうがあまり効いているように思いませんので、上着をきている方はぬいでいただいても結構です。

川上委員。

川上 命委員 副市長が今言ったことでちょっと質問するんですけど、定額給付金と地域振興券、どのような流れになったのか。

それと橋の問題は61kmですか、70kmほど2車線で車が渋滞したと。私もテレビのニュースあったので見に行ってきたんですが、確かに鳴門大橋、車が数珠つなぎということで、だいたいテレビ等では42万台とかいうねんけど、42万台、ちょっと計算したらだいたい担当課だったらわかると思うんですが、淡路島70kmとして渋滞2車線でだいたい淡路島に並んでいる台数を計算したことありますか。42万台とテレビでいったけど、並んだら12万台ぐらい並ぶのと違いますか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 今おっしゃってる渋滞自体が、完全な停滞でないので、ある程度の流れがあるということで、そんだけの通行があったと解釈しています。台数を車1台あたりの長さで割れば、川上議員さんおっしゃっていたように何台という数のはっきりするんですが、流れておりますので、その分は追加交通としての数ということで考えております。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 今、それはそれとして確かに1,000円ということになると、高速を降りない人が多いということで、サービスエリアを見ておきますと、かなり入る車が数珠繋ぎで、それも道路上でサービスエリア入る左車線が非常に混んでいるという状況を見てきたわけなんですけど、そういった中で、サービスエリアの売り上げはおいといて、徳島香川四国ですか、全体的に讃岐うどんということで、非常に好評で、高速賃が安いということで、そのうどんを目当てにということで、だいたい讃岐のほうに行きますと近所迷惑ということで、連休の間は店を休んだと、それとうどん屋で開業しておるところは、ガードマンをつけて整理をしたほどの盛況ぶりということですが、淡路島はそういった、結局われわれも高速道路を下げてくださいという署名もしたんですが、そういった魅力的に、距離的な何もあんなか、わりと車の台数が少なかったと副市長言われた

とおりですが、今後、こういったこの連休挟んだ中での高速道路のこの審議がいつまで続くか、またもとに戻るといことはなかなか大変なことだと思うので、かなり続くと思うのですが、こういったことに関しての担当課はどのような把握をしておられるのかお聞かせ願いたいのですが。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 通行料のお話なんです、ゴールデンウィーク、4月25日から5月6日にかけて、神戸淡路鳴門自動車道の交通量が48万3,900台だと。それで5月5日のピークのときに明石海峡大橋で5万1,567台、大鳴門橋で4万973台ということで、単純にはいかないんですが、差し引きして1万594台が淡路に降りてきたんかなあと、その割合が20%であとの8割は神戸にいったんかなと、四国の台数については。下り1,000円については5月2日がピークで、明石海峡大橋で4万9,066台だと。大鳴門橋で5月2日で3万9,432台ということで、差し引き9,634台、だいたい2割の人が淡路に降りたんかなという数字は今つかんでおります。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 今の台数から単純に計算すると淡路島には降りらんと。ということで、それだけの家族連れとかが食るとかそういう施設、名物とかに乏しいと、讃岐うどんというのは非常に地域性というのは日本中で有名であるということで、どうしても四国に車が流れてしまうということで、今後、そういった高速道路そのもの、トラクター、観光バス、地場産業が、恩恵をこうむらないというのは、ただ観光ということで、こういった観光業に生きるとうことになれば、南あわじ市には魅力がないと、たぶん魅力がないということを感じるんですが、観光担当課としてはどのように今回の連休と車の動きを判断されたのか。

それと先ほどいった定額給付金と地域振興券はどのような流れになったのか、だいたいの線がわかればお聞かせ願いたいと思います。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 定額給付金、地域振興券の流れ先にいきますと、3月28日から4月3日にかけて定額給付金と同時に商い応援振興券を発売しました。1世帯あたり2万円までということで、一応3万6,000セット用意しました。販売がそのときで1万6,510セット、45.9%でございます。

それで28日から29日の2会場で1万5,156セット。30日から4月3日にかけて2会場で1,324セットで発売しました。

この後、残り、1万9,460セットについては、6日の月曜日に1万5,149セット、7日に4,341セットということで完売いたしました。

阿部計一委員長 産業振興部長。

産業振興部長（神田一彦） 先ほどの質問で今後の観光ということでございますが、冒頭にも副市長が申しましたように、ゴールデンウィークの結果の詳しい部分につきまして、現在、聞き込み調査なり、数字を分析しておりますでございます。

いずれにいたしましても、今回の高速道路の軽減化というのは4月20日からということで、現在の段階では個人個人が1,000円、2,000円でどこまでいけるかという試しの期間ではなかったのかと思っております。

その次に考えられるのは、かなりな距離を走りますとガソリン代もかかりますし、疲労もします。この次には安い料金で、近場で一泊なり、するようなきが来るのではないかなというようなことを、まだ分析しておりませんので詳しくはわかりませんが、そういうようなことを予想しております。

そのときに淡路に泊まってもらうような対策を今から練っていくと、というようなことを現段階で考えております。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 定額給付金と地域振興券については、最後、私も家内にいわれて並んどったんですが、最後の売り出しですか、かなり盛況ですぐに売り切れたということでございますが、だいたい女性の方に非常に人気があったということです。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 購入価格は1万円で1万1,000円分です。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 その1万2,000円という計算したなかで、今回はジャスコとかマルナカとかシーパとかいうところもいけるということで、非常に細かい計算したなかで、これは2,000円もうかるというなかで、非常に勘定の高い計算をしたなかで買われたと。

そして、毎日毎日それを使用したということでございますが、その流れというものは的確に南あわじ市で効果が出てましたか。まだそんなデータはわかりませんか。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 一応、4月1日から使用できるということで、4月30日現在で換金にきている金額が1億7,016万1千円。3億9,600万としましたら、43%の換金が来ております。

その中で、一番多いのは西淡のシーパ、次にリベラル三原店、次にパーティとなっております。南淡ジャスコは4番目ぐらいになっています。

阿部計一委員長 ほかに。

楠委員。

楠 和廣委員 先ほど冒頭に副市長から緊急雇用それぞれの産業の特に瓦産業で1人職員を貼り付けということだったんですが、今まで瓦関係の担当職員はおったと思うんですが、それは緊急雇用と含めて2人になるわけですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 従来どおりの部分、商工観光課でやっている分につい

ては従来どおりと、そのうえに今まで取り組んでいない分をマーケティング戦略室のほうで追加していこうと。今までやられとるやつは同じようにやるけど、それ以上に一歩進めていこうという考えかたです。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 ということは今までの担当職員とこのたびの緊急雇用とを2人で連携をとりながやっけていこうと思うのですが、緊急雇用の場合は短期であって、なかなかそういった部分、先ほど副市長がいわれた需要の短期というのは相当な時間がかかるように思うんです。

業界の姿を見ればそういった部分で、どういう展開をしていくのかこれから組合との話になるんだろうと思うのですが、そういった中で、やはり喚起を、瓦の需要の喚起という意味から言えば、今計画されておる公共の建物に対しての地場産業の瓦の利採用等について担当課はどんな見解を持っておられるかお聞かせ願いたい。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 今、瓦の部分につきましては、工業組合さんとの話の中で、まずニーズ調査なり、今までパンフレットを送った部分の整理、またその顧客をできる部分お手伝い、それは一部の時間ですが、それ以降に新たな戦略ということで、今まで行きたかったけど行けなかったところ、例えば、全国の伝統的構造物群保存地区、そこへの働きかけとか、そういうものをしていこうかという話を進めているところです。

その中には市長の推薦状をいただいて、それを持って行くと。こちらのほうから向こうの行政の担当者にアポを取るとか、今まで行ってない分を行って、できるだけ推進を図っていきたいという考え方で動いております。

当然、時間もありますので、いろんなことも考えていけないと考えておるのですが、工業組合さんともいろいろ話し合いの中で、次これ行こう、次これ行こうというような私たちも含めて検討していきたいと思います。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 いろいろ答弁があったんですが、1つぬけとんのが、今、公共物件で計画されとる分に対しての既存の製品を使うことに対して、担当課はどんな見解をもっておられるのかとうことをお聞きしたかったのですが。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 既存の建物、例えば市内の部分、市外の部分、当然ありますので、情報がつかめる分についてはそれをできるだけ推進していきたいと、従来どおりいきたいと思います。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 担当課はどういう見解を持っておられるかということによって、先ほど冒頭に副市長が説明された利用の喚起につながる分に大きいのではないかと。やはり、市の事業に対して、市は地場産業の製品を使ってくれという一言でもあれば、そういったかたちで計画がおのずと進むだろうし、そういった部分で担当課がどんなように業界のこれからの需要のあり方、喚起のあり方というスタンスによって、実のある需要の喚起につながるだろうと思うし、一番心配なのは需要の喚起あったら、おそらく緊急雇用は6か月期間、6か月やったな。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） この場合、ふるさと再生雇用ということで、3年間の事業計画を考えております。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 そうなると、今まで市が商工観光課においていただいております瓦担当職員との連携によって需要の掘り起こし、喚起に対して、行動ができるのではないかと、取り組みができるのではないかと。

要は現実的ないろいろ行政体どおしでの需要の喚起もひとつの方法かとわかりませんが、やはり今の時代的な流れからいったら、施主さんより設計士さんの時点で、もう屋根材の利採用が決まっている。よほどこだわった施主さん以外はなかなか業界が思う需要が期待できないと思うんです。

それと先ほどから言ってる公共物件、進捗しつつある特に人形会館ですが、これもいろいろと話を聞かせてもらったりするなかで、なかなか業界と施主さんと設計士さんの間の距離が、官製的な問題もあって距離があるように思うし、現実的になかなか既存の製品を使っていただいてというような流れにはなっていないと。

やはり新しい商品を開発して、市内の島内の素材を生かして、やっていくんだという、まさにきれいな物語であって、現実になかなか業界はそういった部分で時間的にもその工事に対して、新商品を開発して、また屋根材等壁面もそうですが開発して、実用化して利採用してもらえないのではないかとという心配をするんですが。

その中で施主さんである南あわじ市さんが、あるいはこういった使い方をしてほしいとっていただければ、より業界が思いも伝わるし、担当課のほうも進言をしていただきたいのですが、その点の見解を聞かせていただきたい。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 人形会館の建設について、ちょうど教育部のほうに瓦業界の町口専務と私と、瓦を使用してくれというお願いはしました。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 こだわるんですが、瓦をつかってくれということは、既存の会館にふさわしいような屋根材を使ってほしいというお願いをしてくれるんか、今いわれとる新商品、新製品を開発して、それを利採用してもらおうという2つの選択肢があるんですが、どの選択肢ですか。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 4月25日にその先生が来て、瓦組合と業界と話をした

わけなんです、その前の4月1日に県から永田先生、工業組合の福原理事長、議員連盟の福原先生、また教育部の次長、神戸大学の設計士さんのところについてお願いをしとったわけなんです、やはりその人形会館の建設については設計士さんの考えもあるということで、それで25日に一応説明会を催すという運びになったと思っております。

阿部計一委員長 楠委員。

楠 和廣委員 そういう運びは十分その場面でも聞かせていただいたし、設計士さんの感性的な話も聞かせていただいて、我々の思いとは先ほどもいったとおり、業界だけでなしに、南あわじ市市民のなかでも、そういった人形会館ができるんじゃ、それはいぶし瓦を葺いて会館が建つんだという、大方の方の思いのある中で、ぜんぜん違う、違うといえば表現が適当ではないかと思うのですが、新しい素材を使ってという素材、淡路の素材を使って新しい製品を開発するんだということであって、なるほど設計士さんの言われとることは十分理論があるんですが、今の業界のこの危惧される流れの中で、1枚でも多くの需要の喚起を願うという、そういった市のほうでも需要の喚起で職員を貼り付けるという配慮があったわけですが、そういった配慮からしてみれば全然、合致した方向性でないように思うのですが、それはどのように市のほうで受け止めているか一言お願いします。

阿部計一委員長 副市長。

副市長(川野四朗) この話は皆さん方からよく聞いておりますので、反論はいたしません、人形会館に瓦をとという話は、これは私どもも設計士の方には十分話をいたしました。

今後、人形会館をしていくかということが一番の大きい目標でこの事業を展開しておるわけなんで、これが瓦産業の振興にうまく結びつければそれはそれでいいという考え方なんです、これを整理して考えていますと、この事業は瓦を振興するために作っておるわけじゃないと。淡路人形の新しい会館を作るために会館を作ると。これから伝統伝承を引き継いでいくために、また観光的に有利になるような方法、また今までなかった機能を付加していくために作る会館。

ですから、そこらあたりを少し整理して考えていかないと、それでは今まで南あわじ市

も南あわじ市になってからでも過去、1億近い金を瓦産業にも投入してまいりました。ただそれだけ投入しても結構、それが効果につながったかという、なかなか思い通りにいかなかったと。

考えてみたら、それを投入したからこれで止まっておるという見方と、いくら投入してみても下がるテンポは同じだという考え方もあるわけなんです。ですから、いや、そういうことはいいんやと、人形会館だけ瓦だけ貰っていただいたら瓦産業は振興するといふようなことであれば、無理背でも反対を押し切ってでもやる価値はあるのだと思いますけど、結果的には公共施設、あちこちで可能な限り瓦を利用してきたわけなんですけど、なかなかそういうものだけではとても振興に十分ではなかったということでございます。

設計士は設計士なりの考え方がありまして、なんとか新しい素材を見出して、それを瓦産業の振興につなげるほうが今後いいのではないかというようなことで、瓦の新しい利用というものを提案していただいております。

過日も瓦組合のほうでも瓦の新しい方策について、さきほど楠議員さんもおっしゃったように、建築士等にもそのものを見てもらったら非常に壁材、屋根材含めて好評であったということでございますので、そういうことであれば、今の建築士さんは何も屋根に葺くだけの使用方法ということに限定してないのではないのかなと、いろいろ多様な方法で瓦産業も考えていかないと、これから置いてきぼりになる可能性もあるんでないかという考え方もあるわけなんで、今回、かなり高名な先生でありますので、なんとかここで新しい瓦というものの素材をほかの施設にも活用していただいて、これが淡路産業の新しい姿なんです、ということを入形会館も含めて、あと1箇所2箇所ですうゆうものを利用していただいて、新しい事業展開、PR展開はできたら、というふうに思うわけでございます。

皆様方もご承知ように、これから我々も販路拡大をしていくわけなんですけど、販路拡大していく、今まで旧西淡町の時代から努力をしてきたのか。それを考えますと、昨今の家を建てられる方々のニーズの多様化というもの、そういうものに対応していかないと、取り残されるんでないかと感じもいたしますので、皆さん方のお気持ちもよくわかるんですが、今回新たな方向に足を踏み出してみたいと市としても考えております。

この間も福原理事長や町口専務ともお話ししておりましたら、新しい開発したものについては非常に好評だと。ただ好評だけでもまだ製品が十分に供給できないんだという話もありました。

それも早く供給できるような体制を作って、市と一緒に、そういうものの新しい瓦の販路拡大も考えてはどうかという話もしておるところでございます。

人形会館の話につきましては、瓦の議員連盟の皆さん方、瓦組合の方、設計士と、一緒にお話をされたようですので、そこで、いろいろ汲み取っていただけたと私どもは考えておるわけでございます。

阿部計一委員長 ほかに。

川上議員。

川上 命委員 この瓦については、旧西淡町からずっと瓦のまちということで、かなり産業も多かったところです。

最近、瓦の町はよそから来た人は抵抗感、何が瓦のまちや、瓦いったいあたり何ぼ商売しとるんやというようなと、こういうような抵抗感。これは震災からこちらやと。

これ震災からこちら結局、重量的にいろいろな問題があって軽量化、耐寒化というようなことで、新製品開発するたびに行政のほうもかなりの補助金を出して、その成果そのものは、私もいろいろ聞いておりません。

また瓦振興の議員連盟をしておりますが、一向にそういった会合を上層部の方はしないと、ぜんぜん名前だけの有名無実で終わってしまうような会であると。

そういった中で、このたびの人形会館の中で、一応、この前の議会で元議員がある程度うっぶん晴らしに来たと。

私はこういったことは間違えていると思う。ということは副市長言ったように人形会館というのは時代の流れの中で、南あわじ市の伝統芸能という中で、このたび会館を建てると。それは瓦材で葺いてくださいと。これはお互いに瓦業界。しかし日本的な設計士がちょっと瓦業界と違った防エネ材で使用するといったことで、ここで問題があったと。

私はここにはそれでええと思うんです。そこで議論したなかで、瓦業界もなんとか葺いていただきたいというようなかたちの中での話し合い。しかし、話し合いがどのようになったのか知りませんが、これは今後、設計士が南あわじ市で違った材質で葺くんでしたら、今後そういった瓦業界としてもタイアップ、今後、瓦業界を刺激した中で、将来の新しい製品となるか。そういったことは十分、そういった日本的な設計士とは私は協議をしたなかでやってきたらええと思うね。ただ、今までに補助金、新製品開発いろいろな莫大な屋根材使用したら何%というような補助金を出しておきながら、ひとつの問

題が発すれば、これは瓦業界ではないと思うのですが、一個人であると思うのですが、ああいう態度に出るとするのは非常に悲しい限りであるわけで。

我々は瓦議員団というのはひとつも全然、会もいっぺんもしてない。屋根材が震災からこちらへ補助金を出して新しい瓦が、耐寒瓦ができたのか出来ていないのか、そういったことも全然聞いていないなかで、飛躍的に人形会館で論争化。

果たして担当課にお聞きしますけど、瓦そのものが石州とかそういったとこと対抗できる公共事業に暮かなくても、民間に売れるような状態なのか、今の製品ではそういった三河とか太刀打ちできないのか。まだまだ開発する余地があるのか。そういったことをお聞きかせいただきたいと思います。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） この間、瓦工業組合とお話を聞かせていただく中で、いぶし瓦については、三州さん、そこらと十分対抗できると、当然、瓦何種類もありますんで、いろんな種類を組み合わせると一つの屋根が仕上がるということで、そういうものも淡路ですべてそろっていることで、十分市場での対抗はできると聞いております。

ただ寒冷地仕様になるとやっぱり土の個性であるという、そういうかたちで少し不利な部分があると。ただ全国シェアを考えると無理に不利なところにはいなくても四国、九州、瀬戸内、中国のほうとかいうかたちのなかで、要は温暖なところを攻めていけばいいんやというような話もこの間、しております。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 瓦工業組合とかいう件数30何件40件ですか。組合に入っているのは。そういったように瓦全体、旧西淡町含めた阿万を含めた中でとびとびであるんですが、そういう全体が組合員として三河とか石州とかに対抗できるそういう製品があると、いのでしたら私はもう少し販売路、公共物に暮く暮かんとかそういった問題じゃなく、販売路確保するとかそこに今の状態の中で欠陥があるんじゃないですか。

製品で太刀打ちできるというのなら、そういったものをおじることはないと思うんですが。それはどこに欠陥があって販売ができないんですか。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 製品としては太刀打ちできると思うのですが、今建築様式が工業化されて、粘土瓦の全国的なシェアが下がってきていると。だから淡路瓦も下がってきているんですが、三河も下がってきていると。特に石州なんかは極端に落ちてきて、今までシェア2位だったのが、淡路に抜かれて3位になってます。

だから粘土瓦自体のシェアが全体的に下がってきているという解釈をしています。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 そういういろんな非常に難しい問題が、角度によっては違うという難しい問題があるのですから、人形とか公共物とか、そういったことは知れた枚数ですから、実際民間シェアを広げていくのが大事なことです。そういったことをもっと執行部、行政も指導的な立場で瓦議員団もあるわけですから、そういったことも根本的に我々にも教えていただいて、もっと挙党体制でいかんことには、ちょっとしたらトラブル起こす、言い合いするようなことじゃ、私はちょっと、これだけの南あわじ市の地場産業といわれることには悲しいと思う。

もう少しよそと太刀打ちできるような体制づくりをこの苦しいときに、今こそ立ち上がらんことには立ち上がれへんから、そういったときにちゃんと体制を整えるということ指導できないんですか。

阿部計一委員長 答弁できますか。

産業振興部長。

産業振興部長（神田一彦） 議員さんおっしゃられているような、地域に対抗するということですが、そういうことやなしに、粘土瓦業界、3産地ございますが、3産地がスクラムを組んでいかないといけないような時代が来ていると思います。

同じような業界に対抗するというのもひとつですが、いろんな屋根材ができてきたという中で、粘土瓦の屋根材を全国的なシェアを拡大するというようなところへ来ております。というようなことをこの間の会をしていた中で思ったんですが、その辺を頭において、今後の対応をしていきたいと考えています。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 えらい勉強不足ですみません。ひとつ頑張ってください。

阿部計一委員長 ほかに。
印部委員。

印部久信委員 県の玉葱協会についてお伺いしたいんですが、本年度予算で県玉葱協会負担金ということで346万2千円が計上されておるわけなんですけど、まず、お聞きしたいのは、この県玉葱協会、この協会の会員はどのようになっているのか、それと玉葱協会の主たる仕事、まずその説明をお願いします。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） まずメンバーですけど、南あわじ市、洲本市、淡路市、日の出JA、あわじ島JAです。

仕事ですが、今、南あわじ市から補助金を出しています。補助金等によって、生産の振興対策として、玉葱の種子の購入状況の調査だとか、作付け面積の調査、生産出荷の予想計画等々の調査をやっています。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 今の話ですと、ということは、会員数は5団体ということですか。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） あと淡路玉葱商業組合も入って、たしか6だと思っております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 この6団体です、県玉葱協会の年間の総予算はいったいどうな
ておるんですか。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 全体の把握はしていませんが、補助金で出ています
のは、南あわじ市で345万、洲本が30万、淡路市が30万、日の出も30万、あわ
じ島JAが約360万でございます。

のちほど調べて報告させていただきます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 協会として仕事はそういうようなことをいっとったんですが、県玉葱
協会がそういう団体で負担金のトータルが南あわじ市とJAあわじ島農協が今の説明で
すと、8割、9割をもっているように聞こえたんですが。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 約800万程度でございます。そのうちの私どもの市
とJAあわじ島が主に出しております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 そしたら玉葱協会というものは県玉葱という名前をつけておる協会な
んですが、会員は淡路の3市、2つのJA、それと玉葱商工組合というだけの団体で
すね、実際その種子の配布をやっとるわけですか。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 玉葱の種子がどれだけ購入して作付けしてるんやと、

いう調査とかいろんなことをやっております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 いろんなことほかには、どんなことですか。

阿部計一委員長 農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 冷凍玉葱の病害発生の調査、流通対策の指導を行っています。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 玉葱のというものは、そしたら誰のためであって、今の説明では協会そのものの意味というのが非常にわかりにくいんです。

南あわじ市が345万2千円も負担していく協会として、この協会のあり方ということについて、これで果たしていいものだろうかという感じが受けるんですが。

阿部計一委員長 暫時休憩いたします。

（休憩 14時20分）

（再開 14時30分）

阿部計一委員長 再開します。

農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） すいません。19年度の予算ですけど、約6,000万でございます。その主なものは負担金として南あわじ市から800万。そのほか玉葱等の検査です、検査手数料が4,700万円。そのほか、県のほうから委託金が50万等々で6,000万となっております。

主に使っておりますのは検査員の費用等が4,700万、事務費の職員等の給料等で約700万円使っております。

いったい何をしているのかということでございますが、若干説明しましたように、生産振興の対策事業として、玉葱の種子の購入状況、また生産の動向を調査して作付けの予想並びに面積等の調査をしています。またそのほかに品質の統一、防除等を行ってあります。また玉葱の病害虫の発生の状況の調査、貯蔵玉葱の病害虫発生の調査をし、関係機関に対しての共同で指導を行っております。そのほか流通改善対策事業ということで、生産出荷計画、またその実績調査をしております。また冷蔵庫に対します出し入れの調査も行っております。そして出荷対策事業としまして、玉葱の検査等を行い、青果市場に出しているという状況でございます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 当初800万ぐらいの予算規模であるということで怪訝に思っておったんですが、6,000万ということなんですが、そこでですね、この玉葱の検査ということをおっしゃっていただきましたが、玉葱の検査に4,700万円人件費も含めてだと思っておりますが、現実的に私、玉葱の現場に行ったことがないのですが、実際に玉葱の検査にそれだけの人件費をかけて検査をやっておりますか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） この4,700万につきまして、収入で4,700万は入ってきておまして、検査員に費用として4,700万出しております。これは玉葱だけでなく、レタスと白菜も全部、各農協でやっておるような状態です。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 ですからその答弁の説明の場合、それを含めていうてもらわんとね、玉葱の検査に実際そんなことしよるの見たことないように思うんです。今言われた白菜レタスといわれるならばそういうことも聞いたことがあるので、多少なりとも理解ができるわけです。

ということは、県玉葱協会というのは、冠は玉葱ということになっておるんですが、実態は玉葱、白菜、レタスをも含んだ協会という理解をせんといかんのですね。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 検査員を雇っていません関係上、その玉葱だけでは、その方々に対する手当てが出せないということで、その他の野菜も検査をして手当てをだしている状況です。

阿部計一委員長 休憩します。

（休憩 14時40分）

（再開 14時43分）

阿部計一委員長 再開します。

印部委員。

印部久信委員 この予算資料を見て見ますと、市としてもあらゆる生産団体に対してもろもろきめ細かい保障事業を市はやっとるわけですよ。お聞きしたいのは玉葱商協の組合員さんの数は何人おるんですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） 38業者です。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 この21年度の予算書を見ていまして玉葱商業組合に対する補助というのが別に名目探してみたんですがないように思うんですが、市としてはもろもろの組合とか補助金を出していますよね、例えば県粘土協同組合補助金30万円とかも、あ

らゆる組合に対して補助金を出しておるんですが、玉葱商協に対して出していないのは商協自身から市に対して補助金要請というのは今までなかったんですが。

阿部計一委員長 産業振興部長。

農業振興部長（木場 徹） 今までは確かに商協組合にはそういう運営面での補助金の要望はありませんでした。

今までしたのであれば、今懸案となっておりますバイオの炭化施設のいわゆる国庫県費の補助金の上乗せの率が今委託している施設の21%ということでございます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 また後ほど触れたいと思うのですが、瓦産業につきましても、南あわじ市の農業の玉葱にしましても大きな農業としての生産高を誇っておるわけですし、やはり何も要望のないところに補助金を出す必要はないと思うのですが、協会などはブランド化のための推進事業というのも我々としてもやってほしいという希望もあるわけですね。

また協会の方へ担当部長として行くような機会がありましたら、そういうことも積極的に取り入れてやっていく必要があるのではないかとということで、また担当部長としても助言をしていただきたいと思います。

今の玉葱協会の事業もろもろ聞いておりました、もうひとつなるほどなように思えないところもあるんですね。今までやっている既存の協会をそのまま通年やっておるような継続しておるような感じも受けらんでもないので、協会として、淡路玉葱のブランド化あるいはもろもろ今言っておりました事業以外でもほかにもすること結構あると思うのですが、商協とも相談し、JAとも相談しながらやっていってほしいと思います。

この件はこれで終わります。

阿部計一委員長 川上委員。

川上 命委員 執行部答えたけど、農協のほうの担当に聞いても、玉葱そのものは玉葱協会は名前がついとるけど、大方レタスとかそんなんが主で、費用も補助金もそうい

うことでもらいよる。玉葱は個人で出荷したときは見るけど、農協出荷の場合はほとんど検査しよれへんと、頼まれはしよるけど。

今、印部委員が言われたとおり、向こうも農協のほうも玉葱協会というで玉葱の検査ほとんどせず、大方野菜ということや。そやからちょっと内容的におかしいところがあるねん。

そやさかい、答弁はっきりとした答弁ようせんわ。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 そうということになりますと、設立当初の補助金を出すという趣旨がね、見た感じ、出す理由がなくなってくる可能性もくないんですよ。当初の市から補助金を出しておった趣旨とね、今の現状とはイコールにはならないという面があると思うんです。

そこらは十分検討しながら、補助金を出すのは結構なんですけど、補助金を出しておるそのバックボーンが崩れないような事業をしてもらわないことには具合が悪いと。350万円あまりのお金なんですけど、公金として出しておるんですから、趣旨にそったような事業をやってもらわんといかんと思うわけです。

これで終わっときます。

阿部計一委員長 ほかに。

印部委員。

印部久信委員 今日、挨拶で冒頭副市長が言っておりましたことなんですけど、マーケティング戦略室ということなんですけど、4人の方がその担当にあたるということなんですけど、副市長でも産業振興部長どちらでも結構なんですけど、なかなかこういうことでやっていくことなんですけど、聞いておりますと、まさしく臨時職員を急遽雇用してやっていくということなんですけど、この事業を進めていくには非常に難しいように思うのですが、今担当としてどのようなことを考えておられますか。

阿部計一委員長 産業振興部部長。

農業振興部長（木場 徹） 今言われましたように、なかなか今までいろんな振興をやってきたなかで、結果があまり出ていないというところへ職員を配置して結果を出すということはなかなか難しい問題があるんですが、それ専門にというのは掛け持ちが多かったので、ちょっと違う角度からいろんな研究をして成果が出るか出ないかというのはちょっとわからないのですが、違う方向から検討して何らかの成果を得たいなと思っております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 これ市も21年度予算について考えてもろもろの事業に補助金をつけておるんですね、例えば観光圏施設整備事業360万円というのがあるんですね。

それともうひとつ見ておりますと、淡路島観光圏協議会負担金120万円ということで出ておるわけなんですね。あちらこちらにこれ、市として協会としてもなんとかせんなんと、あらゆるところで細切れの組織でそれなりの補助金をつけてなんとかせんといかんという意欲はわからんでもないのですが、こういうことでしてきたらあっちでやり、こっちでやりと、調整機関がないように思うのですがね、部長。

例えば、観光圏施設整備事業補助金360万円、淡路島観光圏協議会負担金120万円、淡路島観光連盟負担金164万円、そない思ったら観光協会補助金、これは南あわじ市と思うのですが、850万円ということで、もうあらゆる団体に補助金を部分的につけてやっておるということをやっているんですが、これでは成果が出にくいと思うのですが、ここの調整をしながらやっていくという方法はできらんのですか。

阿部計一委員長 産業振興部部長。

農業振興部長（木場 徹） この補助金につきましては去年、観光圏に指定されたということで、淡路島観光圏の協議会とかまた観光圏の施設整備事業補助金という新しいものが増えてきたと。

前からあります淡路の観光連盟の負担金とか市の観光協会の負担金、これは前からあった分ですが、それぞれ市全体を考える観光協会と淡路全体を考える観光連盟といろいろその団体によって範囲も違いますが、同じなのは淡路島に観光客を来て貰うように、また南あわじ市に来て貰うようにと、というようなことでいろんな組織で連携しながらイベ

ントとかをやっておりますし、また分けて考えらなあかんとこは分けて考えているということで、大変複雑な格好になっておるんですが、連携をとりながらやっておるということです。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 でね部長、具体的に観光圏施設整備事業360万円というのがあがっておるんですが、これ具体的に補助金で360万円ということは、具体的に施設整備というのはどういう施設をするのかトータルの予算はいくらなのか。そのうちの360万円を市が負担しておると思うのですが、具体的に説明していただけますか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 360万円の補助金は、国庫補助金を受けるための部分でございます。行政が受けることができませんので、観光協会にお願いをすると、総事業費が600万円の枠の内の6割分としての360万円を計上しています。

中身につきましては海ホテル山ホテルの観光で推進していく分の見せる場所の整備であるとかそういうのに使っていくものでございます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 そうすると今度大型観光キャンペーン推進事業業務委託料50万円というのがあがっておるわけですよ、これはどういうところに業務委託してこの業務委託した先は南あわじ市だけのことをするのか、淡路島をひっくるめてやる事業に対して南あわじ市が50万円の業務委託料を払っておるのか。

ここらを説明いただけます。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 今実施中のDCキャンペーンに淡路全体が取り組んでおります。兵庫県が取り組んでおるものですが、それに対して観光協会のほうに出して

いる分でございます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 そうしますと、昨年度から言われております農商工連携。これとの兼ね合いというのはどういうふうになっておるんですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 農商工連携事業につきましては、異業種間、特に1次産業とそのほかの産業が一緒になって新たな産物を生み出すとか、新たな取り組みをしていくための事業でございます。

兵庫県では現在4箇所が認められていると思います。第1回目は豊岡の農協、第2回目は南あわじ市の1箇所が入っております。

具体的には観光施設に新たな観光資源として摘み取り体験の資材を提供するというかたちで、農産物を提供するというので、今動いております。

要は今までないようなものを新たに作っていくものが農商工連携という考えであります。特に1次産業の利益が上がる、例えばそれは農業であったり漁業であったりそういう形の中で、両方が事業運転する場合は新たなもので、5年間で5%以上の収益を上げるというのが絶対です。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 そこでですね、このたび5月から動いているというマーケティング戦略室なんですが、ここがあらゆることの調整機関になっていくのかなと思ったりするのですが、そうでもないのですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） マーケティング室は農商工連携とほかのマーケティングとしての観光、瓦産業の販売促進、その3本柱で今その室が動いています。

その中で農商工連携につきましては、事業認定とそれが受けられなくてもそれをモデルにしたような取り組み、要は両方がもうかれればよいという形を考えております。

それとそれの推進を考えております。それと観光に生かしていけるのならば観光に生かして行くし、瓦も観光に結びつけれるものがあれば、同じように結び付けていくと、そういうものも複合的に考えるものと理解しております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 非常調査的なこともやることかと思うのですが、これは仮にこのたびの戦略室はですね、もろもろ非常調査とか動向調査したりすると思うのですが、これは予算措置はどういうふうになっていますか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 具体的な予算としましては、委託料として産業振興協会のほうに委託した事業というかたちの中で動いております。

具体的な予算については、産業振興部としては諸会議のお茶代程度のものですが、実際人数の調査であるところは、ほとんどが人件費になるかと思っておりますので、これはいけるのではと解釈しております。また人数調査とあわせて有力な情報を集めて、橋渡しをするという感覚ですので、事業実施が、市がするものでございませぬので、これでいけるのかと思っております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 非常調査といいますと、いつかいつぱん聞いたと思うのですが、都道府県が東京とかそういう大都市圏にアンテナショップをやっておるんですが、兵庫県はアンテナショップは出しておるのかな。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） そのアンテナショップは詳しくは存じませぬので、調

べてみます。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 兵庫県がアンテナショップを出しておるとした場合ですね、淡路の特産品、瓦はアンテナショップはどうかと思うのですが、農産物とかもろもろのものを県がやっておるのでしたら県のほうにお願いして一緒にアンテナショップに出してもらおうというののひとつのニーズを調査する方法かと思うのですが、いかがですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 農商工連携でそういうかたちをとるのであれば、特に加工品としての販売というかたちが、今うちの室では必要になってこようかと思います。

直接農産物そのまま出すのであれば、別にうちが行わなくても農協さんなりどこでも出せるところがありますので、それをいかに加工して付加価値をつけて出すのかと、その結びつきを探すというのが戦略室であると理解しております。

阿部計一委員長 印部委員。

印部久信委員 戦略室そのものの活動はそれでいいと思うのですが、市としてですね、県がそういうアンテナショップ出しておるのでしたら、玉葱であろうが、特産品をアンテナショップに出すと。それで市場調査を兼ねて行うというののひとつの方法だと思います。

例えば宮崎県なんかは東京にアンテナショップを出しているいろいろやっていますね。農産物の市場調査をやって、また販売戦略を練るといってもやっておるわけですね。

最初副市長が言われたこともちょっと4人の新人の臨時の職員さんで果たしてできるのかなとこちらも疑問をもっているんですがね、今始まったばかりですのでどういような答えが出てくるのかわかりませんが。

話を通して聞いたところでは、非常に形のないものに対して形をしていくという非常に難しい仕事だなあと思っておるんですが、皆さん方で知恵を出して、少しでもそういう効果のできるようにやってもらったらと思います。

以上です。

阿部計一委員長 北村委員。

北村利夫委員 これも最初副市長の挨拶の中にあっただのですが、高速料金が1,000円になったと、上限が。その初めての大型連休があったわけなんですけど、普通大型連休のときのいわゆる売り上げ、車の入れ込み等はもともと普通高速道路上がらない前でも結構な入れ込みはあったんですよね。

その中で副市長は思ったほど効果はなかったということなんです。いわゆる土日祝日ゴールデンウィークなんですけど、これのもともとはもう結構入ってきていたということやから、伸びしろというのは本当に限られている分やと思うんですけど、これは観光のほうの課としてはどのように思っておられるのか。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 大型連休の入れ込み客の関係なんですけど、今日の神戸新聞の兵庫欄に淡路の入りこみ客数は若干昨年より減りましたよという数字の中で、県のほうで調べておるのは淡路の6施設。北淡の震災記念館、ウェルネスパーク、イングラントの丘、パルシェ香り、大鳴門記念館、国営明石海峡公園ということで、これについて、昨年の大型連休は4月26日から5月6日の11日間、16万6,047人ということで、1日平均1万5,095人ということになっています。

今回、連休が4月25日から5月6日の12日間にかけて17万5,063人ということで、1日平均1万4,588人。昨年より96.6%入りこみ客数の調べは減っていますよということで、うちも先ほどいわれてます、マーケティング関係で入りこみ客数も若干調べています。

それで一応調べましたのが4月25日から5月10日にかけて。昨年在4月26日から5月11日にかけての16日間ですけど、宿泊施設については国民宿舎で前年度で76.1%、休暇村で88.2%。ホテル淡路プラザで87%。宿泊のほうが減っております。逆に淡路ファームパークイングラントの丘で110.2%。うずしお科学館で106.1%、淡路人形浄瑠璃館で120%、淡路島牧場で115%ということで調査をしております。

阿部計一委員長 北村委員。

北村利夫委員 その数字、そのとおりやと思うんやね。これは今100年といわれる経済状況のなかで、ものすごいケチケチムードの中での観光、ゴールデンウィークやったのかなと思います。そやから普通は大型連休土日祝日の伸びしろというのはほんまに、しれてるんよ、本来ね。何ぼお客さん来ても、高速料金上がろうが下がろうが、変わらないと思ってるんよ。

ただ普段、ウィークデイ、ここらのお客さんをどないするのかというのがポイントになると思うんですよね。これは業界の方との話し合いはしたことあるんでしょうか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 今、おっしゃるとおり、一番のウィークポイントになるのが、土日が安い高速料金。ウィークデイは高いと。それで観光地の人の休みの日もやっぱりお客さんは土日が多いというなかで、少ないと。

先ほどアンケート調査なり、ゴールデンウィークにひっかけて宿泊施設なり観光施設にそういうお願いをしております。その中で出てくる意見、それをどないしよう、どこカバーしようというのは、まさしくマーケティング戦略の中でいろいろ工夫していかなのかなと。

1つは魅力があるもの、何か違う魅力をプラスするか。もう1つは新しいスポット的なことも開発して、魅力を増やすとかたち。それぞれの施設も努力するし、全体をつないだものも探すということも今後進めていこうと考え方でおります。

阿部計一委員長 北村委員。

北村利夫委員 本来、行政がしなくてもよくても、あれもやろうこれもやろうとできるものでないと思うし、それではおしつけになってしまうと。

業者、それに携わっている人たちが最大限努力するのは当然の話なんですけど、たださっき印部さんの質問の中で、観光行政の中でいろいろな補助金が出ているやつをね、本来1つにして、なかで枝分かれさしといたら補助金も一括に出す。それでその中で運営

していくんやから、二重行政的なものにならないのではないかと思いますけど、どうでしょうか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 確かに観光圏、淡路が一本化というかたちが去年出てきました。当然そういう受け皿である団体が出てくると思います。

ただ、即今すぐできるかというのは別の問題ですので、まずは今できるところから、先ほど言いましたが、新しい観光施設とかスポットは、例えば今あっても観光業者が気づかなくても、お客さんがこんなものというのをいろいろなことを聞いて、それを違うところに働きかけをして、新たに今あるもので紹介するだけで足りるものから始めていきたいと。別に施設を市が作るという考えはもっていません。

阿部計一委員長 北村委員。

北村利夫委員 そういうことを聞いているんじゃないしに、観光協会なり、いわゆる南あわじ市の中に観光協会がある、洲本にある、淡路にある、そこらを束ねるところが必要と違うんかなという話やったんやな。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 今観光圏の分では、観光協議会というのがその全体を束ねた形の中であります。

ただ、それは個別部分の各観光協会、例えば洲本には洲本市の観光協会と五色の観光協会、淡路市の観光協会、南あわじ市の観光協会、観光連盟が一緒になって、そういうものを取り組んでおります。

阿部計一委員長 北村委員。

北村利夫委員 このたびゴールデンウィーク中、観潮船の前あたりいったんですが、やっぱり食事するところが少ないんですね。そやからお客さんが表で立って待ってい

るという状況。そやからコンビニなんかは結構お客さんが入っていたという状況にあるんですが。

そこで1つ提案なんですけど、漁業組合等の横で地場魚を食べていただくような施設というのは漁協なんかと話し合っただけでできないものかと、いわゆる地産池消というのをよく聞くんですが、なかなか自分でとってきた魚を自分で値段をつけて売ることができないみたいで、そこらのことも考える必要があるんじゃないかなと思うのですが、いかがですか。

阿部計一委員長 産業振興部次長。

産業振興部次長（水田泰善） 確かにおっしゃるとおり、農商工の漁業版という形でできればやりたいと思うのです。

今の魚の販売形式であるとか、そういうのを考えると非常に難しいところがあるのかなと。ただ食い込めるところがあれば、そこらも推進したいかなと。ひとつは食べるのもお土産品も含めていろいろ考えたいと思います。

阿部計一委員長 沖委員。

沖 弘行委員 今回の北村委員との関係なんですけど、イングランドも人形座もゴールデンウィークでは観光客が増えたということなんですけど、ジョイポートでは逆に減ってあるという新聞報道もあったのですが、その原因はどんなふうと考えられますか。

阿部計一委員長 商工観光課長。

商工観光課長（興津良祐） 聞いたところの話なんですけど、1,000円で高速代を渡ってきて、2,000円で船を乗るというのは若干、お客さんのもっている気持ちがあるのかなというのがあるんですが、隣のお店やテナント4つありますよね、あそこは結構来たという話は聞いています。

阿部計一委員長 沖委員。

沖 弘行委員 私も気になって連休に回っていったのですが、駐車場が満杯というこ

とで、非常に盛況であったと思ったのですが、あの新聞記事を見てびっくりしたのですが、そうしたお客さんの心理だけでしょうか。

阿部計一委員長 産業振興部長。

産業振興部長（神田一彦） 連休の取り方によって結果が違うように思います。

先ほど課長から説明したのが、4月25日から5月10日というような中で説明いたしました。6日間の連休だけを取りますと、実際は減っております。イングランドも減っております。

といいますのは、土日が1,000円ということで、9日、10日にかなり人が入っております。その前の土日また29日という日も多少分散して入っているような傾向にあります。それでトータルしますと、人数的には増えているということですが、6日間を考えると減っているという状況になっています。

阿部計一委員長 沖委員。

沖 弘行委員 いろんな角度からのとり方でそしたら数字の違いというのが出てくるのかと思うのですが、数字だけに一面怖い部分があるのかなと思ったりします。先ほど言っておられましたもう少し中身を検討してみたいということでありましたので、その報告をお願いしたいと思います。

もう一点、水道料金の徴収の件ですが、市内一円同じような方法でということで、旧南淡、西淡については変更しました。

市民の間で大変な混乱がないのかと心配がありましたもんですから、先に予算委員会の際にいろんな角度からの要望したりしたんですが、現実的に4月、第一回が徴収が終わったかと思うのです。

その後、連休が続いておったので、どうかと思うのですが、いろんな声が担当のほうに届いておるのかどうか、お聞きしたいと思います。

阿部計一委員長 企業経営課長。

企業経営課長（松下 修） 今回、水道料金の徴収月の調整ということで、西淡と南

淡に4月に2か月分の請求をしております。まず4月17日に納付書で発行される方に2か月分の請求をしております。それで4月27日に口座振替の方に口座振替をさせていただいております。

状況を報告いたしますと、問い合わせ件数につきましては、199件、約200件の問い合わせがございました。そして、南淡西淡につきましては、1万2,000件ぐらいございますので、約2%の方が問い合わせしておるかなというような状況でございます。

問い合わせの内容はどのようなものかといいますと、ほとんどが重複して口座から引いているのではないかというのがほとんどでございました。

それにつきましても、説明して大体は納得してもらっておるんですが、中には南淡につきましては、1月分と3月分の請求をしておるんですが、2月の請求はどうなってるのかという質問もございまして、2月分は10月に再度2か月分の請求が行くようになりますというような説明もしたんですが、中には社員寮もございまして、結構出入りもありまして、2月分の請求もしていただかないと困るという内容もございました。

それとか、淡路にはほとんど住んでいないんですが、水道は開栓したまま大阪等で住んでおられる方もおられましてそういう方は、チラシとか広報とかは見っていないので、かなり2か月分間違えて落としとるのではないかと先入観で電話をかけてこられたこともありました。

また、先ほども2月分のことを申しましたが、南淡は1月分と2月分が今度10月に請求するんですが、一括で払いたいという方が66件ございました。それと逆に2か月分を払うのがしんどいので分割にしてほしいという話もございましたが、それは南淡・西淡あわせて10件です。

以上で報告を終わります。

阿部計一委員長 沖委員。

沖 弘行委員 この件については、かなり事前に丁寧に何回かチラシを入れてもらっておったんですが、私自身も意味がよくわからなかったということがあって、いろいろ考えてみるなかで、いっぺんに2か月分というのは今の経済状況の中で厳しいなという思いもあって、ああゆうふうな質問をさせてもらったんですが、その後、丁寧な案内をしてくれているようでありますので、一面安心しながらももう一度あるわけですので、念入りな案内をお願いしたいと思います。

それともう一点、前回でしたか北村委員から請求先の違いということで質問があったかと思うのですが、今、独居老人の方がかなりいてると思うんです。

その方が亡くなった場合に、あとその家にだれも住んでおられない、確かにいろんな案内では水道も閉めるという届出をしてくださいという案内もありますけども、周辺の方がそういう死亡届とかなんだかすることになって、そこまで手続きが行き届いておられない場合もあると思うのですが、今、口座での引き落としということで、亡くなったかたが口座をもっておって、それがそのままになっておった場合に手続きがないままそこから引き落とされるケースも考えられると思うのですが。そんなことは今までになかったですか。

阿部計一委員長 企業経営課長。

企業経営課長（松下 修） 私が企業経営課来て、2年経ったのですが、今のところはそういうことはなかったかと思えます。

口座とか解消されて引き落としできなくなった場合は、お客様センターのほうで問い合わせとか連絡とかとりますので、そういうことが発覚するのですが、口座がずっとある場合は身内の方とかどなたから教えていただかないとわからない場合があるんじゃないかなと思います。

阿部計一委員長 沖委員。

沖 弘行委員 これまでそういうことがなかったということで、それでいいと思うのですが、そういう場合、亡くなった場合、なんらかの形で水道料金係のところへ、連絡が行き届くように、いっぺん市民から見たら同じ役場という受け止め方していますので、死亡届の窓口から連絡が行き届くようなシステムを考えておいていただきたいと、そんなふうに要望しておきたいと思います。

阿部計一委員長 上下水道部長。

上下水道部長（津谷忠志） 独居老人の死亡については、遺族の方が手続きをされるかと思うのですが、死亡届の手続きの折にも公共料金の手続き等についても、案内がい

ろんなかたちでされておるので、そういったものを含めてうちのほうで情報収集を徹底しながら、間違った徴収がないように今後努めていきたいと思えます。

阿部計一委員長　　よろしいですか、ほかに。

ないようですので、その他に入る前に、報告事項があるようなことを言われましたんで、執行部のほうで報告事項ありましたら。

都市計画課長。

都市計画課長（森本秀利）　　都市計画課から2点ご報告申し上げます。

まず1点目は、都市計画区域の見直しについてでございます。

兵庫県におきましては、平成の市町村合併や著しい社会情勢の変化に伴いまして、既存の都市計画区域の再編成や都市計画区域マスタープランの見直しを行っております。

本地域におきましても同様に行政合併によりまして、本来一体として整備すべき区域の中に複数の都市計画区域と都市計画区域外が混在している状況となっております。県と共同で平成18年度、19年度の2か年かけまして、都市計画区域の見直しにかかります調査を行ってきておりますことはご案内のとおりでございます。

県におきましては、昨年度より都市計画区域の再編に向けまして国交省等関係機関と調整を進めてきており、今般、本年度中に仮称であります、南あわじ都市計画区域が指定・決定される予定となっております。

つきましては、この都市計画区域の見直しにかかる市民の皆様方への啓発周知を図るため、市広報紙への掲載であったり、新たに今度都市計画区域となります、三原地域において説明会を行っていきたくと考えております。

2点目でございます。南あわじ市住宅マスタープランの策定についてでございます。

昨年度より進めておりました南あわじ市住宅マスタープランの策定についてでございますが、今月末ごろにはとりまとめが整いまして、議員の先生方にご提示をできるものと考えております。

また、内容等につきましては、お時間をできましたら6月の委員会等におきまして、ご説明をさせていただければと考えておるところでございます。

以上2点、ご報告をさせていただきます。

阿部計一委員長　　他にございませんか。

農業振興部次長。

農業振興部次長（奥野満也） この15日の金曜日でございますが、バイオマスの利活用の北阿万施設でございます。新たに破砕機を入れてありますので、10時から試験をやりたいと思います。もしよろしければご見学をお願いしたいと思います。

阿部計一委員長 15日の10時やな。

それでは、その他に何かございましたら。

川上委員。

川上 命委員 その他でこんなこと聞いてよいのか、今日の新聞を見ましても、知的財産の重要性というのが非常に時々載るのですが、南あわじ市で知的財産というようなことについての知っている範囲で教えていただけますか。

ないのですか。

阿部計一委員長 暫時休憩します。

（休憩 15時30分）

（再開 15時32分）

阿部計一委員長 再開します。

それでは、ないようでございますので、これをもちまして委員会を閉会したいと思いますので、閉会にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

1時30分から慎重審議長時間にわたりましたありがとうございます。

これをもちまして産業建設常任委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

（閉会 15時34分）

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成21年 5月13日

南あわじ市議会産業建設常任委員会

委員長 阿部 計一